

令和8年度入学生（81回生）芸術科目の選択希望調査について

滋賀県立虎姫高等学校

虎姫高校では、1年生で週2時間、芸術科目を学びます。書道Ⅰ、美術Ⅰ、音楽Ⅰの3つの科目の中から、1つを選択して学びます。どの科目を選択するか、3月13日（金）の入学許可予定者オリエンテーションで希望を調査し、人数を調整のうえ決定します。

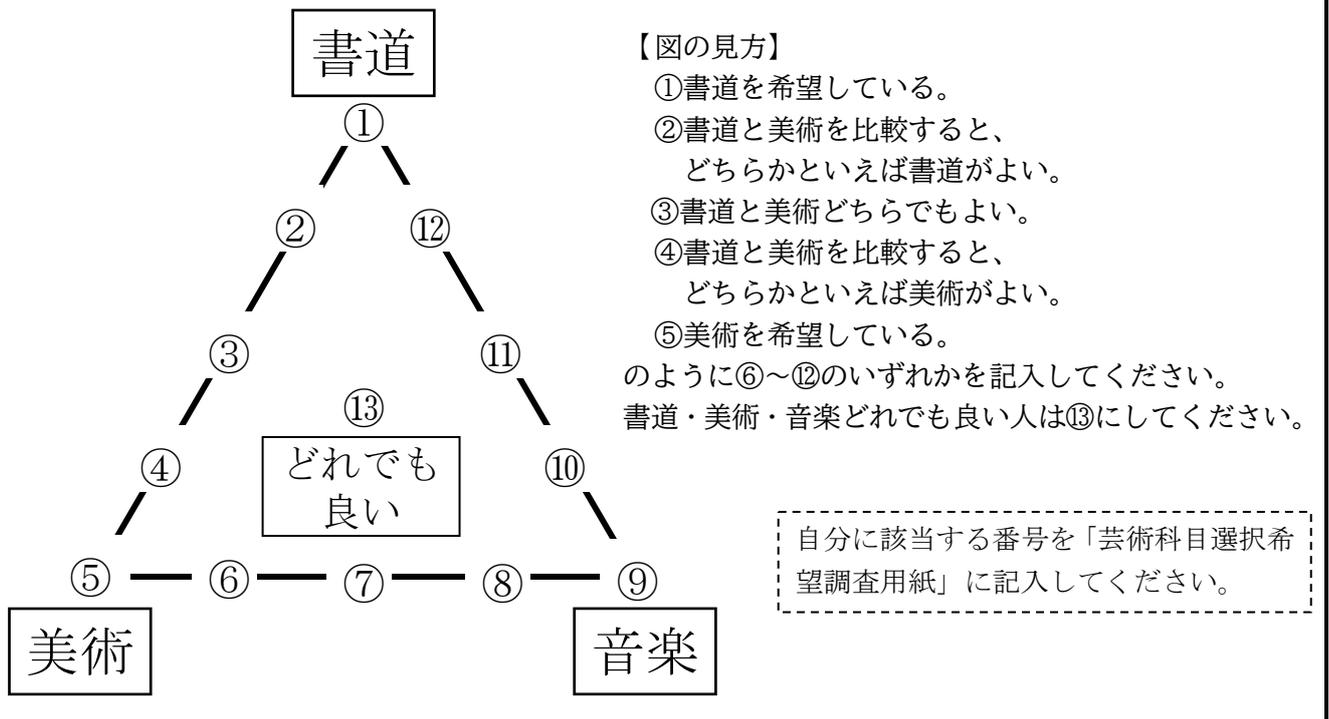
授業内容 各科目の年間指導計画（シラバス）をご覧ください。

材料費（年間）

- 書道 ……約4,000円（紙、墨、印材、ファイル等）
- 美術 ……約5,000円（扇面一式、キャンバスなど）
- 音楽 …… 1,800円+税（篠笛七本調子 Aulos）

- 注意
1. 希望調査用紙提出後の変更はできません。
 2. 自分の意思で選んでください。
 3. できる限り希望を尊重しますが、定員の関係で他の科目になることもあります。

◎ 「芸術科目選択希望調査用紙」の記入について



「芸術選択希望調査用紙」を提出する前に、この用紙に番号を控えておいてください。

控え

【1年間を通して身につける力】

目標	音楽の3要素を基本に、それらを形作っている基本的な役割を理解し、個々がこれまで得た知識と感性を活かしつつ、文化的・歴史的背景と関連付けながら、より多くの音楽知識を身につけ、演奏表現の楽しさ・重要性を理解すること。
----	--

【各観点における評価基準と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度	
評価基準	到達度 A (活用)	音楽に関する専門的かつ多様な内容について理解を深め、音楽を楽しむ表現するうえで必要な知識と技術を身につけている。	音楽に関する専門的技術を総合的に働かせ、その背景にある文化や歴史にも興味を持ち、表現内容の解釈を深めている。	与えられた課題を、受け身な立場で取り組むのではなく、主体的な姿勢を持って学ぼうとしている。
	到達度 B (習得)	音楽に関する専門的かつ多様な内容について、大方の理解を示し、音楽を楽しむ表現するうえで必要な技術をほぼ身につけている。	音楽に関する専門的技術を可能な範囲で働かせ、その背景にある文化や歴史にも興味を持ち、表現内容の解釈を深める努力をしている。	与えられた課題を、受け身な立場で取り組むのではなく、主体的な姿勢を持って学ぼうとする努力が見られている。
評価方法	実技テスト、提出課題 (鑑賞ノート・楽典ノート)、聴き取りテスト	実技テスト、西洋音楽課題提出 (鑑賞ノートを含む)	アンサンブルへの取り組み 作曲課題提出	

【評価のつけ方】

音楽は、生徒それぞれが過ごしてきた音楽環境によって技能や表現能力が異なる。評価が演奏技術に偏ることなく、広い意味での音楽理解を一人ひとりから引き出す工夫をし、『知能・技能』と『思考・判断・表現』とのバランスを欠くこと無く評価するものとする。『主体的に学習に向かう態度』では、自らが技術を習得することに加え、他者との協調性を必要とする“アンサンブル”への取り組みも重要視する。

- * 西洋音楽史・・・題材ごとに音楽鑑賞ノート提出。演習ノートの提出。
- * 楽典・・・題材ごとに小テストを実施 (授業内)。
- * 実技テスト・・・各学期毎に実施 (グループ発表含)。
- * その他の課題は学期ごとに期日を指定し提出。

上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A、B、C の3段階) および評点 (1~5 の5段階) にまとめる。

【使用教科書および副教材】

MOUSA1 (教芸) ザ・ベーシック・オブ・ミュージック 2 改訂

【授業計画】

期	月	学習題材	学習内容	評価方法		
				観点1	観点2	観点3
1	4	西洋音楽史	ルネッサンス時代の音楽鑑賞と理論の説明	校歌写譜	鑑賞ノート	歌唱発表
		歌唱	校歌の歌唱と写譜			
		楽器演奏	ギター（基礎とエチュード）			
	5	西洋音楽史	ルネッサンス	小テスト	鑑賞ノート	歌唱発表
		楽典	楽譜の仕組み（music of elements）・音程	楽典ノート		
		楽器演奏	ギター（基礎とエチュード）	実技能力		
		歌唱	校歌・ポピュラー音楽に親しむ	実技能力		
	6	西洋音楽史	古典派の作曲家についてと、その音楽鑑賞	小テスト	鑑賞ノート	歌唱発表
		楽典	和音・コードネーム			
		楽器演奏	ギター弾き語りチャレンジ			
		歌唱	英語の歌			
	7	西洋音楽史	古典派までのまとめ	小テスト	ノート提出	歌唱発表
楽器演奏		ギター弾き語り発表に向けて	実技テスト			
2	9	西洋音楽史	ロマン派への導入、楽器の変化と音楽鑑賞	課題提出	鑑賞ノート	歌唱発表
		西洋音楽史	ロマン派			
		作曲	童謡を作る			
		歌唱	イタリア歌曲とオペラ			
	10	西洋音楽史	ロマン派のまとめ	小テスト	鑑賞ノート	歌唱発表
		作曲	童謡を作る	課題提出		
		歌唱	イタリア歌曲とオペラ	実技能力		
	11	西洋音楽史	近・現代の様々なジャンルの音楽について （音楽鑑賞）	小テスト	課題提出	歌唱発表
		作曲	童謡を作る			
		歌唱	ドイツ歌曲			
	12	西洋音楽史	近現代までのまとめ	小テスト	鑑賞ノート	歌唱発表
		作曲	作品提出に向けて	課題提出		
歌唱		実技試験に向けて	実技テスト			
3	1	日本音楽史	雅楽のDVD鑑賞と説明	小テスト	鑑賞ノート	経過発表
		アンサンブル	アンサンブル演習			
		楽典・聴音	移調譜作成、その他応用			
	2	日本音楽史	日本の民謡	テスト	ノート提出	経過発表
		アンサンブル	アンサンブル演習			
		楽典	総合問題			
	3	音楽史まとめ	西洋・日本音楽史のまとめ	実技テスト	鑑賞ノート	課題提出
		アンサンブル	アンサンブル発表に向けて			
		楽典	まとめの問題			

【目標】

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

【各観点における評価基準と評価方法】

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
評価基準	活用 (到達度A)	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。
	習得 (到達度B)	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について大方の理解を深めている。 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わす努力をしている。 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める努力をしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとする努力が見られている。
評価方法		課題作品 鑑賞表 (A・B) プリント学習	課題作品の下書き アイデアの描画 スケッチ 鑑賞表 A 印刷物による作品 B 生徒作品	表現及び鑑賞の活動を通しての制作態度

【評価のつけ方】

上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A、B、C の 3 段階) および評点 (1~5 の 5 段階) にまとめる。

上記の観点をふまえて、提出物 (制作品、下絵、鑑賞表、その他) を中心に総合的に評価する。作品の完成度は大きな比重であるが、完成に至る過程も大切であり、主体的に学習に取り組む態度として評価する。

全ての題材で表現と鑑賞を一体的に学習できるように考えた。「発想や構想に関する資質・能力」が身につくように制作過程を示して「技術に関する資質・能力」も身につくように配慮した。

【使用教科書および副教材】

美術 I (光村図書出版)

【授業計画】

期	月	学習単元	学習内容	評価方法		
				観点1	観点2	観点3
1	4	(鑑賞) オリエンテーション (鉛筆描写) ・クロッキー	高校美術の学習と意義 学習内容と心構え モチーフの持つ形態や表情をとらえ観察しながら表し方を工夫する。	課題 プリント	鑑賞表	制作態度
	5	(鑑賞)洋画 (描写) ・デッサン 静物 ・静物画 下絵	作品の良さや美しさを感じ味わい、その感じ方を深める。 モチーフの構造を理解し、正確な形を把握する。明暗を表現し立体感を出す。	課題作品 デッサン クロッキー	鑑賞表	制作態度
	6	(絵画)静物画 アクリルガッシュ使用	対象の捉え方、感じ方をより豊かにする。用具の特性の理解と使用の工夫をする。 アクリルガッシュの特性を生かしモチーフの色彩、陰影、質感を捉える。	課題 プリント 課題作品	下絵	制作態度
	7	(鑑賞) 生徒作品の相互鑑賞	作者の意図や表現の工夫を味わう。		鑑賞表	制作態度
2	9	(鑑賞)日本画 図版や作品など日本文化	扇面デザインに対する構想表現について理解する。日本美のDNA-線の美、墨の色、色の美、擬人化の系譜等々について理解する。		鑑賞表	制作態度
	10	(デザイン) 扇子 下絵(扇面)数枚 (和紙)2枚	日本文化を感じさせる対象、西洋文化を感じさせる対象、その他、各自がテーマを決定し内容に合ったデザインをする。 扇面の特徴を理解し表現する。それぞれに形体や色彩、構成などについて考え表現する。全体のイメージを捉えて着彩する。材料や用具の特性を生かして工夫し表現する。	課題作品 下絵 アイデア スケッチ	下絵 アイデア	制作態度
	11	(鑑賞) 生徒作品の相互鑑賞	作者の意図や表現の工夫を味わう。	課題作品	鑑賞表	制作態度
	12	(鑑賞) ・抽象画/抽象立体/心象画(立体)	造形的な美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。	課題作品	鑑賞表	制作態度
3	1	(立体・平面) ・ボックスアート ・アートガラス	不思議な空間をあらわす。 課題テーマのデザインをあらわす形・色彩など表現方法を工夫する。	課題作品 下絵 アイデア スケッチ	課題 プリント アイデア	制作態度
	2	・キャンバス	・発想や構想したことを基に各自工夫し創造する。 ・意図に応じ材料や用具の特性を生かし制作。	スケッチ	スケッチ 下絵	制作態度
	3	(鑑賞) 生徒作品の相互鑑賞 まとめ	作者の心情や意図と表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。多様な表現方法を認め、作者の思いに共感する。	課題作品	鑑賞表	制作態度

【目標】

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、主体的に表現するための基礎的能力と書を鑑賞する能力を伸ばす。

【各観点における評価基準と評価方法】

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
評価基準	活用 (到達度A)	書の伝統に基づき、専門的かつ創造的な内容について理解を深め、必要な知識と技術を身につけている。	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて、創造的に構成し、個性豊かに工夫したり書の文化や価値を考え、書的美を考え、書的美を深く実現している。	与えられた課題を主体的な姿勢を持って学ぼうとし、創造的な活動に取り組もうとしている。
	習得 (到達度B)	書の伝統に基づき、専門的かつ創造的な内容について大方の理解を示し、必要な技術をほぼ身につけている。	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて、創造的に構成し、個性豊かに工夫したり書の文化や価値を考え、書的美を深める努力をしている。	与えられた課題を主体的な姿勢を持って学ぼうとする努力が見られている。
評価方法		提出課題 (内容度) 実技能力	課題提出 (内容度) 実技能力	レポート (理解度) 取組姿勢

【評価のつけ方】

指導の内容や作品形態にかかわらず基本的な用具・用材の扱い方を身につけ、自己の表現意図をしっかりと持ち、主体的に行動していることが大切である。具体的には、作品制作前の構想と制作後の総括レポート、並びに制作活動を重要視する。
上に示す観点に基づいて各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価 (A・B・C の 3 段階) および評点 (1～5 の 5 段階) にまとめる。

【使用教科書および副教材】

書 I (光村図書)

【授業計画】

期	月	学習単元	学習内容	評価方法		
				観点1	観点2	観点3
1	4	書写と書の相違について 唐の四大家の学習 用具・用材について 起筆・送筆・収筆について	書写と書の特質を理解する 楷書について理解する ・筆の特質と構造を理解する ・直線・曲線・円運動を基礎とし、 漢字作品に取り組む。 1 起筆…筆のうちこむ方向の工夫 2 起筆…露・藏鋒 3 送筆…中鋒 4 収筆の工夫 5 紙・墨の工夫 (墨の潤濁・濃淡の工夫など)	課題提出	課題レポ	取組姿勢
	5			課題提出	ート	取組姿勢
	6			実技能力	作品提出	
	7	漢字少字数大作	・大筆で自己のイメージを瞬時に表現する。	実技能力	作品提出	取組姿勢
2	9	篆刻 1 字書きと短文による作品 唐の四大家の学習	・姓名印の制作 自分の姓名を篆書になおす 印刀の使い方 印泥の使い方 ・墨の色や濃さを考えて、創意工夫し、作品を構成する。 作品に押印する(自分の姓名印) ・虞世南…孔子廟堂碑 ・欧陽詢…九成宮醴泉銘 ・褚遂良…雁塔聖教序 ・顔真卿…顔氏家廟碑	課題提出	課題提出	取組姿勢
	10			実技能力	実技能力	取組姿勢
	11			課題レポート提出	レポート提出	
	12	北魏時代の書	・牛廐造像記	課題提出	作品提出	取組姿勢
3	1	行書の学習 隸書の学習 篆書の学習 仮名の学習 漢字仮名交じりの書 (修了作品の制作)	・王羲之…蘭亭序 ・曹全碑 ・泰山刻石 ・蓬萊切 ・高野切第三種 (仮名技法の習熟をはかる) ・自作の詩歌などを用い、文字配置の方法 (作品のイメージを重視)	課題提出	作品提出	取組姿勢
	2			課題提出	作品提出	取組姿勢
	3			課題提出	作品提出	取組姿勢
	3		課題提出	作品提出	取組姿勢	
				実技能力	レポート	レポート